

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館 (1階ユニット)		
所在地	静岡県静岡市清水区高橋2-9-15		
自己評価作成日	平成31年3月8日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=truet&jiyosyoCd=2274202528-00&PrefCd=22&Vers ionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスとの連携がとれており、特に栄養科は毎月全体会議を行い、食事サービスの質向上にむけて取り組んでいる。管理栄養士が在籍している中、介護職にも栄養士資格をもった職員がおり、機能発揮している。認知症実践者研修修了者が併設デイサービス含めて6名おり、認知症ケアに特化した事業所作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまで長年清掃に課題を残していましたが、今回変貌を遂げ5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)が格段に向上しています。当初は1日の予定表に掲載して掃除担当を指名(1週間交代)してみたものの大きな成果が見られず、曜日と場所を指定しての「その日、その時の役割」制としたところ、現在の状況に辿り着けていて、ISO取得から4年目となりマネジメントサイクルに乗せて課題を解決することが実践できるようになった賜物ともいえます。ただし、「きれいの基準は人それぞれなので凸凹はできる人がうめる」こととなり、実は管理者と介護支援専門員の力が大きく貢献しており、2人のできるリーダーが若い職員の育ちを促進させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」をもとに「地域社会との対話と交歓」にむけて職員一人一人がお客様の個別ケアにあたっている。朝礼で唱和を通じて意識を高め、こやまケア委員会では浪漫館10か条の実践を深めている。	『こやまケアの10ヶ条』の推進は法人全体の取り組みとして浸透していますが、3年前から事業所内のこやまケア委員会が中心となり『浪漫館の10ヶ条』として、新人にも解りやすくアレンジして更に推進力を強めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事(飯田まつり)や自事業所祭りなどを通じて地域住民と交流を図る。ボランティア慰問や地域の保育園との交流を行う。	『浪漫館祭り』は多い年は200名余が集まる大イベントで、その場を通して周知度も高まり、ご縁も広がっています。近所の牛乳屋夫妻はまるで浪漫館の親衛隊のように気にかけてくださり、こども園の来訪も年数回あり、切り花を何度となく届けてくださる地域住民もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	部署目標に位置付けた認知症勉強会を年2回開催し職員は理解を深めた。運営推進会議を通じて今後発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でお客様の状態を共有し、防犯器具の設置については、地域における防犯について共有した。	運営推進会議には行政、地域、家族と14、5名のメンバーを揃えて、隔月開催が叶っています。過去には川の氾濫もあり、防災対策の共有は参加者皆の意識に刻まれ、「水はけが悪いから工事の進捗を確認して～」といった身近な話題がよく挙がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課に出向き、お客様の現況や現在の人員状況及び今後の体制変更に関する相談等行っている。	細部に渡って質問することで、市役所介護保険課とは信頼関係を構築しており、制度改定についても助言、指導を受けることができています。また地域包括支援センターは夕方からの開催にもかかわらず毎回運営推進会議に出席くださるほか、入居の紹介も届いています。	介護相談員の配置があると、なお良いと思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議内で身体拘束について協議している。年に2回身体拘束勉強会を予定し2月は全体会議で実施した。	法改正に準じて指針・マニュアル整備をおこない、委員会を設置のうえ会議運営の年4回を終えています。また最近パートタイマー職が新たに採用されていますが、オリエンテーション内において研修を漏れなく実施しています。また3要件の対象者も現在ありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で開催する不適切ケアより学びを深めている。併設デイサービスでも虐待事案があれば、運営推進会議を中心に地域住民と共有し、包括支援センターへつないでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度について、職員で学ぶ機会は少なく、今後管理者を中心に学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は複数者で管理者が中心に行う為、疑問点は介護現場視点での回答をしている。必要に応じて担当者会議を開催し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に1回実施し、施設を介さず法人本部と直接回答を行っている。年2回振り返りを行い改善に努めている。	日頃の様子を写真に収めてパソコンからプリントし、その中に居室担当者が手紙をしたためて月1回家族に報告しています。面会の頻度は高いとはいえませんが、年2回の家族会には一家族4、5名ということもあり、10数組余が参加くださり、夏はスイカ割を一緒に愉しんでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署目標進捗と個人目標振り返りの場があり意見収集している。各会議体を通じて職員の声を運営に繋げている。事業計画立案時グループワークを行い意見交換を行った。	事業計画と連動した個人目標もあり、「リーダー研修へいきたい」と主体的に手を挙げる職員もでて、意欲の高まりが感じられます。個人の「希望休を増やして」には「連休をとる」との部署目標で応え、「畑を利用者とやりたい」は高床式の園芸スペースをつくって要望を実現させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標、実務評価表で実績把握を行っている。各会議場で働き方の見直し、環境整備について協議している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初旬に研修参加計画を立てて、職員の力量に合わせた研修機会を作る。新入職者へはOJTチェックシートを用いて育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人、事業部での職能別の交流や研修を通じて、横の繋がりを作っている。良い取り組みは水平展開しケアの質向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク利用者初回面談にて、所長、管理者が同席し直接聞き取りを行う。関係職種で協議し関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅CM等関係者より十分なヒヤリング、情報収集を行い、必要に応じてご本人には言いにくい事をご家族から聞き取りしながら、ご本人と家族との仲介役になる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の希望にあわせて訪問診療への切り替えを提案した。総合病院受診時は施設中心で受診対応をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カンファレンスを通じてご本人の出来る事はケアプランへ反映する。家事活動で共同を行えることをみつけていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に施設側は書面を用いて、ご家族と協力して支援していく事の大切さを説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス出身のお客様について、友人がデイサービスご利用時には再開できるよう馴染みの関係が途切れないように支援している。	これまで通ったマッサージ店が遠いため、近所で探して代替での満足を支援したり、読書好きの人のために2週間毎に図書館で沢山本を借りたり、併設のデイサービスから入居の人は関係が途切れないよう、階下の遊びにゆくことを続けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーションや、食事の際お客様同士の関係性を配慮し連帯感をつくる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療支援が必要になった方が退居後に法人内で対応できることについて相談させ頂き入退所支援を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者を中心に意向確認を行う。必要時担当者会議を行い、関係職種で確認する。	モニタリング月に気づきを書き入れるオリジナルシートがあり、居室担当者にはそこに日頃の気づきを書き入れてもらい、カンファレンスのベースとしています。嗜好調査も月1回以上実施し、食事には特に望みが高い利用者のリクエストに応え『てかね寿司』を提供したこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク情報だけではなく、ご本人、ご家族との関わりの中で得た情報も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調確認表にて、全てのお客様の今日の様子を情報共有している。申し送りノートを活用し気になる事について共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議時にご家族様と協議し、得た情報をもとに月に一度のフロア会議内で職員同士協議し、プラン反映している。	2表のサービス内容には個別性がある一方で職員の裁量が入る幅のある記載で、塩梅のよい介護計画書と成っています。昨年着任の介護支援専門員は家族の信頼も厚く、新人職員にも解りやすく「転倒することなく～」には「靴が履けているか」と、何をしたらよいかを示せています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録のサービス実施状況を踏まえてカンファレンスで見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時、管理部門と連携し施設対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のセブンイレブンや牛乳屋の住人との関わりを通じて笑顔が生まれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者には訪問診療への切り替えをおこなってもらい負担軽減に繋げることができた。主治医との橋渡しをしている。	月2回訪問診療くださる2つの開業医に協力医をお願いし、16名と2名の分担でみてもらっています。管理者、介護支援専門員、リーダーが立ち会えるようシフト調整し、『体調管理表』の医療項目に記録を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、デイサービス看護師との連携も深めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、計画作戦担当者を中心に地域連携室との関係性を作り、入退所支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時契約時に看取りの指針を伝え、その時の意向をお聞きしている。回復不能になった際は、主治医からも説明をし、意向確認を行っている。	年2例程度の割合で毎年看取りに取組み、新人も法人の看護部が制作した『看取りのガイドライン』を熟読しています。また段取りや連絡方法等やるべきこと、責任の所在を明確にし、不安が払しょくできるようにと、上位者が常に心配りしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時連絡対応マニュアルが法人統一ルールで整備され、定期的に全職員でマニュアル確認を行っている。各フロア掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月、3月に消防訓練を実施。併せて安否コール訓練を行った。	消防署に届け出たの法定訓練を年2回プラス、立地を鑑み浸水想定で1回実施しています。上階避難では若い男性職員が利用者を背負って階段を昇ったり、下りたり等実のある訓練を体験しました。またこやまケア委員会のISOの係が入替を担当、備蓄の漏れもありません。	改めて消防署に依頼するとともに、各職員がおしなべてすべてのメニュー(水消火器、スモーク等)を経験できるような工夫があることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア委員会を中心に、個別ケアを実践している。現在浪漫館こやまケア10ヶ条の浸透を深めている。	「ノックをする」「利用者の前を素通りしない」といった着眼点に基づいて法人内で施設間評価があり、他施設の評価から戻ってきた職員が内容を発表することで、改めて意識できるという仕組みがあります。また目立った改善点は都度、所長「や管理者が面談で確認をとっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染の職員に思いを打ち明けられるよう、人員配置を配慮し関係性作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日勤リーダーを中心に、お客様の希望にあわせて日々の計画を都度変更しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様のご希望はご家族と共有し面会時に届けて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師を持った介護職がデイサービスと連携しお一人お一人の好みに合わせた食事提供をしている。できるお客様には下膳をしていただいている。	毎日の食事は職員が手作りで提供していて、「美味しい」と評判です。「今日は〇〇さんの誕生日なので、〇〇さんの好きなエビフライです」と紹介しつつ、特別感を演出しての誕生日会や行事食もあり、おやつ調理レクリエーションは年4、5回おこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調確認表を用いた水分量の管理や、食事形態表にてお客様の食事提供の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア充実の為、共有スペースに洗面を増設。必要に応じて、口腔ケアの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の排泄パターンを読み取り、定時、随時のトイレ誘導を実施。	「なるべくトイレで」と便座に座ってもらうことに努めていて、2割が布パンツ、8割がリハパンで、夜間にテープどめのオムツとなる人はいません。健康管理をおこなう書式を9名1枚にまとめるようになり、協力医の指導も得て、便秘が重篤となる人は現在いません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材の使用や、乳製品も用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週割りでお客様の予定にあわせて、計画はたてているが、体調面などを考慮し入浴案内している。	1日おきの入浴としてはいますが、「この人ではイヤ(異性)」「今日は入りたくない」に応じて翌日に替えることもしばしばです。それでも「週2日は」ということは守っていて、遅番が11時~20時なことを活用して夜間の入浴にも対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝介助は、個別に対応。その日のお客様のペースにあわせて、共有フロアでも休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療の際の処方内容について、担当者より現場介護職へ伝達共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの雑誌を楽しまれたり、コンビニへの買い物などを通じて気分転換を図ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニへの買い物同行は、ご本人の希望に沿って行っている。	年間の行事計画のなかに初詣、どんど焼き、お花見、回転寿司等を組込み、散歩は本人の状態や希望に合わせて、ほぼ毎日出るといふ人、園芸店の花々を覗き込む習慣をもつ人もいます。また更新手続きなど職員が出かける際には誘っていて、細目な外出支援があります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時に施設建て替えにて、お小遣いという形でお持ちいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、施設よりご家族に電話連絡し、お客様との橋渡しになる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物、壁画には季節感を取り入れている。	格段に整理整頓、清掃が行き届き、空気さえ清浄に感じられる共用空間に生まれ変わっています。対面キッチンの効用で食事の支度をする職員とも会話ももて、音や匂いも流れてきて、家庭的な雰囲気が満喫できます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを増設しお客様同士が交流がはかれるようにした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みの食器、家具等を持ってきていただく案内をしている。	「家に帰りたい」気持ちから3、4つの荷物にまとめ、すぐにでも帰宅できるようにしている人もいます。それでも「夜はね、エアコンの音が煩いのよ」と言いつつ、窓を開けてエアコンの在る場所を示してくださる様子には、此処が暮らす処となっていることが伝わります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯、掃除に出来る限り参加していただき、お客様の主体性を引き出すよう心掛けている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202528		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム百葉清水浪漫館 (2階ユニット)		
所在地	静岡県静岡市清水区高橋2-9-15		
自己評価作成日	平成31年3月8日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan1=truet&jiyosyoCd=2274202528-00&PrefCd=22&Vers ionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービスとの連携がとれており、特に栄養科は毎月全体会議を行い、食事サービスの質向上にむけて取り組んでいる。管理栄養士が在籍している中、介護職にも栄養士資格をもった職員がおり、機能発揮している。認知症実践者研修修了者が併設デイサービス含めて6名おり、認知症ケアに特化した事業所作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまで長年清掃に課題を残していましたが、今回変貌を遂げ5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)が格段に向上しています。当初は1日の予定表に掲載して掃除担当を指名(1週間交代)してみたものの大きな成果が見られず、曜日と場所を指定しての「その日、その時の役割」制としたところ、現在の状況に辿り着けていて、ISO取得から4年目となりマネジメントサイクルに乗せて課題を解決することが実践できるようになった賜物ともいえます。ただし、「きれいの基準は人それぞれなので凸凹はできる人がうめる」こととなり、実は管理者と介護支援専門員の力が大きく貢献しており、2人のできるリーダーが若い職員の育ちを促進させています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」をもとに「地域社会との対話と交歓」にむけて職員一人一人がお客様の個別ケアにあたっている。朝礼で唱和を通じて意識を高め、こやまケア委員会では浪漫館10か条の実践を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事(飯田まつり)や自事業所祭りなどを通じて地域住民と交流を図る。ボランティア慰問や地域の保育園との交流を行う。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	部署目標に位置付けた認知症勉強会を年2回開催し職員は理解を深めた。運営推進会議を通じて今後発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でお客様の状態を共有し、防犯器具の設置については、地域における防犯について共有した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	静岡市介護保険課に出向き、お客様の現況や現在の人員状況及び今後の体制変更に関する相談等行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議内で身体拘束について協議している。年に2回身体拘束勉強会を予定し2月は全体会議で実施した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で開催する不適切ケアより学びを深めている。併設デイサービスでも虐待事案があれば、運営推進会議を中心に地域住民と共有し、包括支援センターへつないでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度について、職員で学ぶ機会は少なく、今後管理者を中心に学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は複数者で管理者が中心に行う為、疑問点は介護現場視点での回答をしている。必要に応じて担当者会議を開催し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に1回実施し、施設を介さず法人本部と直接回答を行っている。年2回振り返りを行い改善に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署目標進捗と個人目標振り返りの場があり意見収集している。各会議体を通じて職員の声を運営に繋げている。事業計画立案時グループワークを行い意見交換を行った。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標、実務評価表で実績把握を行っている。各会議場で働き方の見直し、環境整備について協議している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初旬に研修参加計画を立てて、職員の力量に合わせた研修機会を作る。新入職者へはOJTチェックシートを用いて育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人、事業部での職能別の交流や研修を通じて、横の繋がりを作っている。良い取り組みは水平展開しケアの質向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク利用者初回面談にて、所長、管理者が同席し直接聞き取りを行う。関係職種で協議し関係づくりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅CM等関係者より十分なヒヤリング、情報収集を行い、必要に応じてご本人には言いにくい事をご家族から聞き取りしながら、ご本人と家族との仲介役になる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の希望にあわせて訪問診療への切り替えを提案した。総合病院受診時は施設中心で受診対応をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	カンファレンスを通じてご本人の出来る事はケアプランへ反映する。家事活動で共同を行えることをみつけていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に施設側は書面を用いて、ご家族と協力して支援していく事の大切さを説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービス出身のお客様について、友人がデイサービスご利用時には再開できるよう馴染みの関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操、レクリエーションや、食事の際お客様同士の関係性を配慮し連帯感をつくる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療支援が必要になった方が退居後に法人内で対応できることについて相談させ頂き入退所支援を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者を中心に意向確認を行う。必要時担当者会議を行い、関係職種で確認する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	インテーク情報だけではなく、ご本人、ご家族との関わりの中で得た情報も参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調確認表にて、全てのお客様の今日の様子を情報共有している。申し送りノートを活用し気になる事について共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議時にご家族様と協議し、得た情報をもとに月に一度のフロア会議内で職員同士協議し、プラン反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録のサービス実施状況を踏まえてカンファレンスで見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時、管理部門と連携し施設対応を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のセブンイレブンや牛乳屋の住人との関わりを通じて笑顔が生まれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望者には訪問診療への切り替えをおこなってもらい負担軽減に繋げることができた。主治医との橋渡しをしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、デイサービス看護師との連携も深めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者、計画作戦担当者を中心に地域連携室との関係性を作り、入退所支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時契約時に看取りの指針を伝え、その時の意向をお聞きしている。回復不能になった際は、主治医からも説明をし、意向確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時連絡対応マニュアルが法人統一ルールで整備され、定期的に全職員でマニュアル確認を行っている。各フロア掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	9月、3月に消防訓練を実施。併せて安否コール訓練を行った。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア委員会を中心に、個別ケアを実践している。現在浪漫館こやまケア10ヶ条の浸透を深めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染の職員に思いを打ち明けられるよう、人員配置を配慮し関係性作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日勤リーダーを中心に、お客様の希望にあわせて日々の計画を都度変更しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様のご希望はご家族と共有し面会時に届けて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師を持った介護職がデイサービスと連携しお一人お一人の好みに合わせた食事提供をしている。できるお客様には下膳をいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調確認表を用いた水分量の管理や、食事形態表にてお客様の食事提供の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア充実の為、共有スペースに洗面を増設。必要に応じて、口腔ケアの支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様の排泄パターンを読み取り、定時、随時のトイレ誘導を実施。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材の使用や、乳製品も用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週割りでお客様の予定にあわせて、計画はたてているが、体調面などを考慮し入浴案内している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝介助は、個別に対応。その日のお客様のペースにあわせて、共有フロアでも休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療の際の処方内容について、担当者より現場介護職へ伝達共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの雑誌を楽しまれたり、コンビニへの買い物などを通じて気分転換を図ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コンビニへの買い物同行は、ご本人の希望に沿って行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時に施設建て替えにて、お小遣いという形でお持ちいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、施設よりご家族に電話連絡し、お客様との橋渡しになる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物、壁画には季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを増設しお客様同士が交流がはかれるようにした。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みの食器、家具等を持ってきていただく案内をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯、掃除に出来る限り参加していただき、お客様の主体性を引き出すよう心掛けている。		